

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 5 年度第 1 回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和 5 年 6 月 1 9 日(月) 午後 2 時～午後 3 時 2 0 分
開催場所	高松市屋島山上交流拠点施設 やしまーる 多目的ホール
議 題	(1) 第 3 次高松市創造都市推進ビジョン（仮称）の骨子（案） について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、二宮委員、尾路委員、中村委員、荒川委員、 香西委員、若井委員、三野委員、桑島委員、杉ノ内委員
事 務 局	中川創造都市推進局長、次田文化・観光・スポーツ部長、松本産業振興課長、南部観光交流課観光工リア振興室長、平井産業振興課長補佐、岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍 聴 者	1 人 (定 員 2 人)
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

1 開会
(事務局から新任者の紹介)

2 議題 (1)

【事務局】

(資料 1 について説明)

【委員】

ビジョン骨子（案）については、分野が多岐に渡っており、これで良いと思う。こどもや工芸、食、交流の共同・連携をどうしていくかがポイントになると思う。

審議経過及び審議結果

先日、宮崎県延岡市の「延岡市駅前複合施設 エンクロス」を視察した。そこでは、市民が先生として60～70人程登録しており、自分の得意分野について、講座を持ち、他の市民に教えている。例えば、人気があるチキン南蛮のお店の店主が、チキン南蛮の作り方を主婦に教えるという講座をしており、非常に盛り上がっていた。高松市も市民が自走できるような仕組みがあると良い。

【委員】

ビジョンの中に、市民が目標とできるフレーズ、言葉、目標みたいなものがあれば取り組みやすいと思う。色々な取組を通して、魅力あるまちになって、最終的に人が増える、集まる場所を将来像として目標としたらどうか。香川で育った若者が、また香川に戻って来て暮らしたいと思えるまち、高松に移住したいと思えるようなまち、そういう魅力がもっと増えると良い。

また、外国人も含めて観光で訪れて楽しいと感じ、人がたくさん来てくれるというのは、色々な取組をした結果、生まれてくるものだと思う。

【委員】

「こども」というワードが出てくるが、子どもには、親だけでなく、祖父母、叔父叔母等たくさんの方が結びついているので、そういった視点を持って、高松市の魅力を発信していくべきだと思う。

芸術士の活動について、自分の子どもも、幼稚園で実施してもらい、とても良い活動だと感じた。その時だけでなく、その芸術士の展示会やワークショップに出かけていくようなこともあった。ぜひ続けてほしい。

一方で、中高生に対する施策があると良いのではないか。中高生は、香川を出るかどうか、都会に出るかどうか、悩む時期だが、そういった若者が高松に帰ってきてくれるようにするには、高松市に面白いことや人がいることを知ることが大事だと思う。地元で活躍している様々な分野の大人が、授業等をしてはどうか。そうすれば、家に帰って、保護者に話し、見に行きたいという話にもなり、学校の先生にもそれが伝わって、どんどん普及していく。

大人になる前の段階の中高生に着目して、高松の良さを発信していくと良いと思う。

【会長】

高松が創造都市を10年やってきて、全国的に一番話題になったのは、幼稚園・保育所への芸術士の派遣である。これは大きなインパクトがあった。

これから思春期を迎えて地域社会の中で存在感を増してほしい、中高生に対して、有効な事業を実施するのは賛成である。

【委員】

ビジョンの骨子（案）からは、具体的なものが見えてこない。

盆栽の普及のため、学校巡回教室を行っているが、アンケートを取ると、児童が 100 人いて、家に盆栽があるのは 2、3 人程度である。「盆栽の郷」という拠点施設があり、夏休みに親子で盆栽教室を 1 時間半程度行っている。色々な盆栽や歴史やなぜ鬼無が盆栽の里になったのかという話をし、その後、苔玉教室を行っている。大人に関しては、初級、中級、上級に分かれて、盆栽教室を行っており、県外からも参加している。色々な所で色々な取組が行われているが、多くの人に伝わっていないと思う。情報を集約し、参加しやすいようにしてはどうか。

【会長】

工芸プロジェクトのなかで、盆栽の郷に力を入れてきた。

高松市の場合、黒松の盆栽の生産では日本一である。海外からの注目度も高いと思うので、ぜひ力を入れてほしい。

【委員】

石材業界では、業界自体の衰退の中で、職人がいなくなっている。近い将来、後継者もいなくなってしまうのが現状である。庵治地区には、世界に誇れる石がある、すごい職人達がいるということ在必死で発信している。香川県にいと、庵治石は世界で一番素晴らしい花崗岩であるということ、業界の人でなくても、香川県の人間だったら知っていると思うが、香川県を出たら知っている人は少ない。業界内では誰もが知っているものと勘違いしてしまっており、市の職員でも、世界中で庵治石が知られていると思っているかもしれないが、全く認知度はない。その認知度を上げていきたいと思い、発信を続けているが、職人がどんどん減っている。庵治石の職人になりたいという人が増えてくれることを狙って発信しても、やりたいと思う人が現れた時に受け入れるところがない。

素晴らしいものを伝えられる人間がいけないという現状を本気で考えてほしい。

石川県や富山県の次に工芸高校ができたこともあり、工芸に秀でた市だと思うのでどうすれば現状を打開できるのか、一企業だけではどうにもならないことがいっぱいあるので、市として動いてほしい。

【委員】

本日の会場である、やしまーるについて、約 16 億円という費用は見合っていないのではないかという、世論調査の記事が四国新聞に掲載されていた。既に完成しているものなので、使ってもらえないと思うが、市民に、どのように活用すべきか問うて欲しい。屋島の「ウリ」は何かと考えた時に、やはり景色だと思う。やしまーるがあつての景色となるならば、この一体感をもっと感じたい。そういったことを知ってもらうには、新しい取組が必要だと思う。アイデアの裾野を広げているのは実は民間の人達である。今まで行政がやってきていたことを民

間がやったらもっと大きくなると思う。

創造都市ネットワーク日本の加盟自治体では、それぞれの地域ごとに、何に特化しているというところが見えやすくなっている。ただ、高松の場合は、こども、工芸、食、交流、という柱は見えているが、それを連動、連携させる手腕が文字だけでは伝わらないのが残念に思う。

また、ビジョンは発信の仕方によっては世界中の人の目に触れる物だと思う。今回、ページ数が少なくなり、伝わりやすくなっていると思う。独創、世界、未来という3つの志向が大切だということを、写真を多用し、誰が見ても分かるような資料を作成すると、民間の人でも行政に歩み寄ってくれると思う。

ビジョンを策定して、誰に対して発信していくかということも考えるべきだと思う。

【会長】

やしまーるの中に入って体験するということや、もっとクリエイティブに、どのように使用したらよいか、というのは大きな論点である。

例えば、創造都市金沢の拠点施設である21世紀美術館がある。浜松なら浜松、神戸なら神戸でそれぞれの拠点施設っていうのは、そこで創造都市のイメージが分かるようになっている。せっかく新しい建物が出来て、素晴らしい景観があるので、それをどのように、市民が使用するかというところはこれから取り組んでいくことになる。第3次ビジョンの中にもそういった視点があると良い。

【委員】

まず、計画期間が8年間というのが非常に長いと思う。8年間の計画を立てても、8年間の後半には、方針等が通用しなくなっているのではないかと。

3年、長くても4年で修正をしないと、時代についていけなくなると思う。

2点目は、3つの基本方針は、非常に分かりやすくて良いと思うが、明確なゴール（数値）が必要であると思う。

創造都市推進ビジョンというのは、市民に対するコミットメントなので、明確な数値のゴールがないと基本方針、ビジョンにならない。

3点目が、カーボンニュートラルについて、入れるべきであると思う。

最後の4点目は、メタバースを作成すべきである。高松のメタバースをバーチャルでつくって、リアルな高松とパラレルワールドを作っていくというのが一番有効な策だと思っている。バーチャルシティの中から高松のリアルシティの方に呼び込むという方法を取る。今なら、高松市がナンバーワンのバーチャルシティになれる可能性も残っていると思うので、ぜひ検討してほしい。

最後に、会議資料については、紙配布をやめてはどうか。プロジェクターに映して議論すれば良いと思う。

【会長】

計画期間が 8 年というのは長いと思う。市の総合計画と合わせているということなので、4 年で見直しをする等、中間地点での見直しを最初からしっかり考えていくべきだと思う。

カーボンニュートラルを含めて SDGs を創造都市の中でどうやるか考えるべきである。

社会全体のデジタル化が進む中、会議の場でもリアルで議論するところとオンライン上でできるものと両方組み合わせてやっていけるようにしたい。

【委員】

スポーツを通じて、地域をどう取り上げ、観光につなげるか等考えてみたが、一団体、一企業では、予算や人が足りなかったり、目の前のことで精一杯になったりしてしまうので、資料の中にもあるように、官民ともに、「共同や連携」について実施していく必要がある。そうすることによって、一団体ではできないことも、可能になると思う。

他の委員の話でもあったが、目標やゴールのような、明確なものを一つ定めるべきではないかと思う。資料の 5 ページに書いてあったブッキングドットコムランキングで、国内で唯一、高松市が選ばれたことは本当に嬉しいし、誇らしいことであるが、今まで知らなかった。高松市の良いものを市民がどれだけ知っているのかと考えると海外や県外の方には周知がされていると思うが、実際そこに住み、暮らしている私たちがどれくらい知っているのかとなるとあまり知られていない。

野球に関しても、子ども達に遠足等で野球観戦に来てもらえるようにしたら良いと思うが、年間のスケジュールが決まっているので、来てもらえるのは、比較的自由度が高い、幼稚園に偏りがちである。幼稚園の子どもたちは、家に帰って、楽しかったからまた行きたいと話すかもしれないが、大人は家で、その日あったことを話すことはあまりしないので、家族間で情報が共有され辛い。なので、子どもを中心として、高松市の魅力のあるところを、体験型で発信していくことを進めてほしい。

【委員】

計画期間として、8 年計画になっているので、この会議の場で、8 年後まで視野にいたれたことを計画しないといけない。特に内容としては今まで 11 年やってきたことをまとめたものとした感じだが、先を見越したビジョンを作っていかなければならない。先ほどバーチャルやカーボンニュートラルの話があったが、デジタル社会の進展に伴い、ChatGPT 等色々なものを活用する話が出てきている。

地域と人が AI によってつながることで、新たな地域創造していくこと自体が必要だということは、目に見えている話で、そういう観点で、高松の新しい将来像を考えてく必要がある。

今回、第 3 次の中では、独創の部分でデジタル化や SDGs 時代の変化を捉えた

新たな取組・創造的人材の活動・ものづくりの支援という言葉が入っているのでそれを補えるのかと思う一方で、子ども、工芸、食、交流っていう 4 つだけでは含められないだろうと思う。

また、高松市だけではなく、全国的に、少子化と人口減少が進んでいる。地域の住みやすさが話題になる中で、例えば、「食」プロジェクトを「食・住」にし、「工芸」プロジェクトを「工・芸」にしてはどうか。一目でみてわかりやすいことが必要であるが、固めすぎるとかえって、分かりづらいビジョンになる。

第 3 次を短くするか、中間的な見直しを行う等、8 年後の社会を見通した考え方をもう少しできたらよいと思う。

【事務局（創造都市推進局長）】

様々な御意見をいただいてきたが、何人かの委員の共通の意見として、情報発信というところがあった。

情報発信については、ホームページや SNS 等があるので、あらゆる手段での情報発信を行う重要性は充分認識している。具体案はなかなかお示しができないが、今後そういったところには、特に力を入れていきたい。

それ以外のことでは、子どもであるとか、高齢者や外国人が楽しく暮らせる、集まれる、そういった多様性という視点も必要ではないかと感じた。

計画期間等、御意見をいただいたかと思うが、そういったところも含めて、反映できるところは反映して素案につなげていきたい。

3 閉会